

市川 図書館だより 43

ICHIKAWA LIBRARY

2004.1.1

発行：市川市中央図書館 編集：広報委員会 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 . 047-320-3333

中央図書館 特別コレクション

市川市中央図書館では、『特別コレクション』として、特に市川市にゆかりの深い作家の永井荷風、日本画家の東山魁夷、写真家の星野道夫の三氏に関連するさまざまな資料を集め、利用者の方々にご覧になっていただいています。

そこで今回は、この『特別コレクション』について紹介したいと思います。

永井荷風

略伝

永井荷風氏は、明治12年(1879年)東京に生まれました。若い頃、アメリカ、フランスに滞在し、帰国後、西欧化の世相を批判して、のち耽美派の代表的文学者とされました。代表作に、「ふらんす物語」、「つゆのあとさき」、「断腸亭日乗」などがあります。73歳で文化勲章を受章、75歳で日本芸術院会員に選ばれました。昭和34年(1959年)市川市八幡町4丁目の自宅で亡くなりました。享年79歳でした。

コレクション内容

永井荷風氏本人が書いた本約250タイトル、永井荷風氏について書かれた研究書や評論が約300タイトル、雑誌など図書以外の資料約90タイトルが集められています。

また、昨年から、現在出版されていない貴重な図書を古書店から探し出して、収集を進めていますので、これらの本も近くご覧になっていただけるようになると思います。

東山魁夷

略伝

東山魁夷氏は、明治41年(1908年)横浜に生まれました。東京芸術学校研究科修了後、ドイツへ留学。帰国後、数々の作品を発表し、その繊細で流麗な風景の描写から、当代随一の日本画家としての地位を確立されました。また、エッセーなどの著作も多く著されています。57歳で日本芸術院会員に選ばれ、61歳で文化勲章を受章されました。昭和28年(1953年)より市川市中山に住まれ、昭和63年(1988年)には市川市名誉市民の称号が贈られましたが、平成11年(1999年)90歳で逝去されました。

コレクション内容

画集やご本人が書いたエッセーなど約220タイトル、東山魁夷氏に関して書かれた研究書や評論が約20タイトル、雑誌など図書以外の資料が約10タイトル集められています。

また、生涯学習センターの2階にある映像文化センターのベルホールでは、ハイビジョンによる作品の放映を、3階にある東山魁夷アートギャラリー(展示替えのため1/14(水)までは休館)では、リトグラフを中心とした数々の作品が展示されていますので、あわせてご鑑賞いただくことができます。

星野道夫

略伝

星野道夫氏は、昭和27年(1952年)に生まれました。慶應義塾大学卒業後、写真家・田中光常氏の助手をへて、大学在学中からその魅力にとりつかれていたアラスカにわたり、壮大な大自然と、そこに生きる野生動物や人々の姿を撮り続けました。また、写真と同様、魅力にあふれた文章で数多くの著作を残しています。34歳で第三回アニメ賞を受賞、38歳で第15回木村伊兵衛写真賞を受賞しましたが、平成8年(1996年)8月、取材先のロシア・カムチャッカ半島のクリル湖々畔で、ヒグマの事故により非業の死をとげられました。43歳でした。

コレクション内容

ご本人が撮られた写真集やご本人が書いたエッセーなど約60タイトル、星野道夫氏に関して書かれた図書が約30タイトル、雑誌など図書以外の資料が約20タイトル集められています。また、今後も引き続き収集を進め、コレクションの充実を図っていく計画です。

より充実したコレクションに向けて！！

『特別コレクション』では、利用者の方々がよりご利用しやすいように、様々な工夫をこらしております。ここではそのいくつかをご紹介しますと思います。

資料の分類をさらに細分化

特別コレクションの分類を資料の性質別に5つに分けて、本の背ラベルに表示しています。

(背ラベルの見方)

上段 Z...特別コレクションをあらわします。

中段 ナ...永井荷風氏関連の資料

ヒ...東山魁夷氏関連の資料

ホ...星野道夫氏関連の資料

カタカナの次の番号

- 1...一冊まるごとその人の著作。
- 2...一部分にその人の著作が載っている本。
- 3...一冊まるごとその人に関する研究・評論の本。
- 4...一部分にその人に関する研究・評論が掲載されている本。
- 5...その他の資料(雑誌、新聞記事、パンフレットなど)

たとえば、Z/ヒ2であれば、一部分に東山魁夷氏の著作(または絵画作品)が載っている本ということです。



資料の中の記述箇所が一目瞭然！

本のタイトルや目次にその人の名前が書かれていない資料でも、その人に関連する記述がわかるように、そのページ数がバーコードの上に表示されています。



市川の永井荷風氏に関する記述を調査中
今年3月に市川市文化会館で「永井荷風展(3/13~28)」が予定されていることにもなって、市民ボランティアの方々と、市川時代の永井荷風氏について書かれた記述を全資料からピックアップし、データベース化する作業をすすめています。

あらたなる図書館サービスをめざして(年頭のごあいさつ)

市川市中央図書館館長 漆原 利一

あけましておめでとうございます。

中央図書館は、今年開館10周年を迎えます。

平成6年、日本毛織の工場跡地に複合施設・生涯学習センター(メディアパーク市川)の1階フロアに中核施設として竣工した中央図書館は、市町村立の公共図書館としては全国でも有数の施設の規模を誇るものでした。

その後、中央図書館は、幅広い資料の収集・提供をはじめ、レファレンス機能の充実、情報技術(IT)の積極的な活用による図書館類縁施設とのオンライン網の整備・拡大、インターネットによる資料検索・予約受付、CTIサーバー導入による内部事務の合理化、学校とのネットワーク事業、こども読書活動の推進などなど、利用者の利便性の向上と時代を先取りする多彩で特色あるサービスの展開に努め、連日のように多くの視察者を受け入れるまでになっています。

こうした中で、利用者の数も年々増加し、平成14年までの9年度間の累積では、図書等の資料を借りた人は約358万人、貸し出した資料は約2,740万点になります。

しかし、公共図書館は今、大きな岐路に立たされています。長引く不況の中で、これまでのように潤沢な予算は望めなくなっています。それは、本市図書館も例外でなく、スリムで効率的な図書館運営へ経営の刷新が求められているのです。

また、「公共図書館はベストセラー本の大量購入・貸出で著作者の利益を害している」など、公共図書館に対する風当たりも大変厳しくなっています。

これからの公共図書館はどうあるべきなのか?いま、公共図書館は、そのあり方が問い直されているのです。ただ利用者の数や資料の貸出点数だけを競う図書館であってよいのか?生涯学習支援施設としての図書館はどうあるべきか?地域の情報拠点としての資料収集のあり方は?などなど...開館10年目を迎えるこの節目の年に改めて考え直してみようと思っています。そして、時には市民のみなさんと一緒に答えを探しながら折り合って、市民の身近な書斎としてさらにみなさんから愛される図書館づくりを目指していきたいと思っています。